

令和7年

9月

療育相談員だより



〒863-0043

天草市亀場町亀川1886番地2

天草圏域児童発達支援センター

電話：23-7049 FAX：22-4985

メール：hondo@amasha.jp

暦の上では秋となりますが、まだまだ厳しい暑さが続いています。夏の疲れもやすい時期です。体調面にも気を付けてお過ごしください。今月は、『コミュニケーションについて』情報提供します。

●親の集い

○子育ての悩み、試してみて良かったことやお子さんの近況など情報交換の場です。

○ペアレント・メンターさんや療育相談員が個別の対応も行っています。



✂ 今月の『親の集い』は・・・

○日時：令和7年9月17日(水) 10:00～11:30

○場所：天草圏域児童発達支援センターすくすく園 会議室(天草市社会福祉協議会本渡支所内)

コミュニケーションについて

ことばの発達には「言えることば」「わかることば」「コミュニケーション意欲」の3つが必要と言われています。水鉄砲で例えてみると、

水鉄砲の口から出た水のことばは「言えることば(音声言語)」、水をためるタンクは「わかることば(概念)」です。

ことばが音になって口から出る為には、「わかることば」が必要です。例えば「皮をむいて食べる」「おいしい味がする」「あれはりんごだ」という概念は、日々の生活の中でさまざまな経験を積み重ねることによって身に付き、「わかることば」となります。

もう一つ大切なことが、引き金を引く力、「コミュニケーション意欲」(伝えたいという気持ち)です。言葉を知っていて、舌や口唇を使って発音する力が備わっていても、伝えたい気持ちがなければコミュニケーションは成立しません。そのため、ことばを言えるようになるには「わかることば」や「コミュニケーション意欲」を育てることが大切になります。



『ことばのキャッチボール』という言葉がありますが、会話はキャッチボールと同じで、聞き手と話し手の相互作用です。子どもの発達段階に合わせたやりとりができるような関わりが大切です。そのような関わりの一つに『インリアル・アプローチ』があります。

『インリアル・アプローチ』とは、子どもと大人が総合的に反応しあうことで、学習とコミュニケーションを促進します。自然な遊びや生活の中で、言葉の力を伸ばしていくという考え方です。



インリアル・アプローチ

『インリアル・アプローチ』には、大人の基本姿勢と、お子さんへの関わり方が示されています

大人の基本姿勢

- *静かに見守り
- *子どもの興味や遊びを観察し
- *子どもの気持ちや発達レベルを理解し
- *子どもが言おうとしていることに心から耳を傾ける

① ミラリング

- ◎子どもの行動をそのまま真似る



この人は反応があって面白いから、またやってみようという気持ちにつながります

② モニタリング

- ◎子どもの声やことばをそのまま真似る



声を出すこと、お話しすることって楽しいと感じることができます

③ パラレル・トーク

- ◎子どもの行動や気持ちを代わりにことばに表す



⑤ リフレクティング

- ◎子どもの間違いを言い直して返す



発音を直されるのではなく「さりげなく」「正しい発音を聞く」ことができます

④ セルフ・トーク

- ◎大人が自分の行動や気持ちを口に出して言う



⑥ エクスパンション

- ◎子どもの意味や文法を広げて返す



⑦ モデリング

- ◎子どもに会話のモデルを示す



子どもと一緒に楽しみ、子どもの気持ちに沿ったことばをかけていくことで、豊かなコミュニケーションが生まれます。

また、ことばや気持ちを共有することで「話すって楽しい」と感じ、「もっとやりとりしたい」という気持ち、表現する意欲の向上にもつながります。

コミュニケーションの機会も自然と増えることで、より言葉に触れやすい取り組みです。

●8月の療育相談員だよりでお知らせしていました『子育て支援講座ペアレントプログラム』の時間に誤りがありました。

いずれの回も

10:00~11:30

になります。

お詫びして訂正します。